

安全データシート

改定：2022年 6月 8日

整理番号：7201

1. 製品及び会社情報

製品名：苛性ソーダ

会社情報

会社名：大和薬品株式会社

住所：〒981-3408 宮城県黒川郡大和町松坂平8丁目3番2号

担当部門：生産物流部

電話番号：022-345-3904

FAX番号：022-345-3906

緊急連絡先：生産物流部 営業部化学品グループ
・電話番号：022-345-3904 022-345-3901

2. 危険有害性の要約

GHS分類

爆発物	区分に該当しない
可燃性ガス	区分に該当しない
エアゾール	区分に該当しない
酸化性ガス	区分に該当しない
高压ガス	区分に該当しない
引火性液体	区分に該当しない
可燃性固体	区分に該当しない
自己反応性化学品	区分に該当しない
自然発火性液体	区分に該当しない
自然発火性固体	区分に該当しない
自己発熱性化学品	区分に該当しない
水反応可燃性化学品	区分に該当しない
酸化性液体	区分に該当しない
酸化性固体	区分に該当しない
有機過酸化物	区分に該当しない
金属腐食性化学品	区分1
急性毒性	
経口	区分3
経皮	分類できない
吸入(気体)	区分に該当しない
吸入(蒸気)	分類できない
吸入(粉じん、ミスト)	分類できない

皮膚腐食性／刺激性	区分1
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	区分1
感作性	
呼吸器	分類できない
皮膚	区分に該当しない
生殖細胞変異原性	区分に該当しない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分1
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	分類できない
誤えん有害性	分類できない
水生環境有害性	
短期(急性)	区分3
長期(慢性)	区分に該当しない

GHSラベル要素



危険

危険有害性情報 : 金属腐食のおそれ
 飲み込むと有害
 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷
 臓器の障害(既知の部位は11. 有害性情報に明記する。)
 水生生物に有害

注意書き

《安全対策》 : 他の容器に移し替えないこと。
 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
 取扱い後はよく洗うこと。
 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
 環境への放出を避けること。
 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

《応急措置》 : 直ちに医師に連絡すること。
 特別な処置が必要である。
 物的被害を防止するためにも流出したものを吸収すること。
 飲み込んだ場合:直ちに医師に連絡すること。口をすすぐこと。
 飲み込んだ場合:口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
 吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
 皮膚（または髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。
 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続ける

《保管》：施錠して保管すること。
 耐腐食性／耐腐食性内張りのある容器に保管すること。

《廃棄》：内容物や容器を、国際／国／都道府県／市町村の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

： 単一製品
 化学名又は一般名：水酸化ナトリウム
 別名：苛性ソーダ
 濃度又は濃度範囲：

化学名又は一般名	略称	濃度又は濃度範囲	官報公示整理番号		CAS No
			化審法	安衛法	
水酸化ナトリウム	—	25.0%以上	(1)-410	既存物質	1310-73-2

化学式：水酸化ナトリウム NaOH
 法規制対象成分：

成分	安衛法	PRTR法
水酸化ナトリウム	表示対象物／通知対象物 第319号	指定化学物質に該当しない

4. 応急措置

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合：汚染された衣類、靴などを速やかに脱ぎ捨てる。必要であれば切断する。製品に触れた部位を水又は微温湯を流しながら洗浄する。石鹼を使ってよく落とす。外観に変化がみられたり、痛みが続く場合は直ちに医療措置を受ける手配をする。
 医師の指示なく、油類その他の薬を薬傷部に塗ってはならない。

眼に入った場合：直ちに清浄な水で15分以上洗眼する。その際は瞼を開き水が全面にゆきわたるように行う。眼球を傷つける可能性があるため、目をこすったり固く閉じさせてはならない。速やかに医師の手当てを受ける。コンタクトレンズを使用している場合は固着していないかぎり、取り除いて洗浄を続ける。

-
- 飲み込んだ場合 : 直ちに医師に連絡すること。口をすすぐこと。
被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。
- 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候及び症状
: 特になし
- 応急措置をする者の保護に必要な注意事項
: 汚染された衣類や保護具を取り除く。救助者が有害物に触れないよう手袋を使用するなど注意する。
誤飲及び吸入の被災者に人工呼吸をする場合には口対口法を用いてはいけない。逆流防止バルブのついたポケットマスクや医療用呼吸器を用いて人工呼吸を行う。
- 医師に対する特別な注意事項
: 特になし
-

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : この製品自体は、燃焼しない。
- 使ってはならない消火剤
: 特になし
- 火災時の特有の危険有害性
: 加熱されると腐食性及び毒性のヒュームを発生する恐れがある。水分や水に接触すると、可燃性物質の発火に十分な熱を発生する。
- 特有の消火方法 : 消火作業は、風上から行う。
- 消火を行う者の特別な保護具及び予防措置
: 消火活動では、耐熱手袋、ゴーグル型保護眼鏡、空気呼吸器を着用する。
-

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項／保護具及び緊急時措置
: 作業の際には「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、ガスを吸入しないようにする。
漏出した場所の周辺にロープを張るなどして、関係者以外の立入りを禁止する。
- 環境に対する注意事項 : 流出した製品が河川などに排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
- 封じ込めおよび浄化の方法及び機材
: 少量の場合には、乾燥砂、土、おがくず、ウエス等に吸収させて、密閉できる空容器に回収する。
大量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。
本製品は強アルカリなので、盛土で囲って流出を防止し、安全な場
-

所に導いてから処理する。必要があればさらに希塩酸、希硫酸などで中和する。下水溝、表流水、地下水に流してはいけない。

二次災害の防止策 : 特になし

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 : 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

取り扱い、換気のよい場所で行う。

漏れ、あふれ、飛散しないように、みだりにミストを発生させない。

眼、皮膚、衣類に付けないこと。

局所排気・全体換気 : 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。

注意事項 : みだりに粉塵、ヒュームが発生しないように取扱う。

安全取扱い注意事項

: アルカリ性なので、酸性の製品との接触を避ける。

接触回避 : 特になし

衛生対策 : 作業後、手をよく洗い、うがいをしてから、飲食等をする。

保管

技術的対策 : 火気注意。直射日光を避け、換気の良い冷暗所に保管する。

適切な保管条件 : アルカリ性なので、酸性の製品とは同一場所に保管しない。

安全な容器包装材料

: 軟鋼、銅、アルミニウム、亜鉛には腐食性があるため、ステンレスまたはポリエチレン容器に保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策 : ヒュームやミストが発生する場合には、局所排気装置を設置する。
近くに手洗い、洗眼などの設備を設ける。

管理濃度 : 設定されていない

許容濃度 :

水酸化ナトリウム	2mg/m ³	最大許容濃度	日本産業衛生学会
水酸化ナトリウム	2mg/m ³	Ceiling limit	ACGIH

保護具

呼吸用保護具 : 防塵マスク、送気マスク、空気呼吸器等

手の保護具 : ゴム製保護手袋

眼／顔面の保護具 : ゴーグル型保護眼鏡

皮膚及び身体の保護具

: ビニール製保護衣、ゴム製保護長靴

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 高粘性液体
色	: 無色透明
臭い	: 無臭
融点／凝固点	: -10℃
沸点	: 112℃
初留点	: データなし
沸騰範囲	: データなし
可燃性	: 不燃性
燃焼又は爆発範囲(下限)	: データなし
燃焼又は爆発範囲(上限)	: データなし
引火点	: 不燃性
自然発火温度(発火点)	: データなし
分解温度	: データなし
pH	: 14(1mol/L)
動粘性率	: データなし
溶解度	: 易溶(アルコール)、易溶(グリセリン)、無限大(水)
n-オクタノール／水分配係数	: データなし
蒸気圧	: データなし
密度及び／又は相対密度	: 1.267(30/4℃)(比重)
相対ガス密度	: データなし
粒子特性	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: 特になし
化学的安定性	: 通常の取扱い条件では安定であるが、空気中の炭酸ガスを吸収して容易に炭酸ナトリウムになる。
危険有害反応可能性	: アルカリ性なので、酸と反応し発熱する。 アルミニウム、錫、亜鉛等の金属を侵し水素を発生し、これが空気と混合して引火爆発することがある。
避けるべき条件	: 直射日光、高温体との接触を避ける。
混触危険物質	: 酸化剤、強酸、銅、亜鉛、アルミニウム及びこれらの合金。
危険有害な分解生成物	: 特になし。

11. 有害性情報

急性毒性 :

水酸化ナトリウム	325mg/kg	経口ラビット(LD50)	SIDS
----------	----------	--------------	------

皮膚腐食性/刺激性

- 水酸化ナトリウム : 重篤な皮膚の薬傷、眼の損傷
 水酸化ナトリウム : ヒト皮膚に対して0.5%以上で刺激性を引き起こす。
 水酸化ナトリウム : ブタ皮膚に対して8%以上で腐食性を引き起こす。
 水酸化ナトリウム : ウサギ皮膚に対して5%/4時間で重度の壊死を引き起こす。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

- 水酸化ナトリウム : 重篤な眼の損傷
 水酸化ナトリウム : ヒト眼に対して重篤な損傷を引き起こす。
 水酸化ナトリウム : ウサギ眼に対して1.2%以上で腐食性を引き起こす。

呼吸器感受性又は皮膚感受性

- 水酸化ナトリウム : ヒト皮膚での感受性試験において感受性は認められなかった。

生殖細胞変異原性 : エームテスト SIDS 陰性

水酸化ナトリウム	陰性	エームテスト	SIDS
水酸化ナトリウム	陰性	in vivoマウス骨髄小核試験	

発がん性 : データなし

生殖毒性 : データなし

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

- 水酸化ナトリウム : ヒト呼吸器、気道を刺激し肺水腫を引き起こす。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

- : データなし
 誤えん有害性 : データなし

12. 環境影響情報

生態毒性

魚類 : データなし

甲殻類 :

水酸化ナトリウム	40.4mg/L(48h)	ネコゼミジンコ(EC50)	SIDS
----------	---------------	---------------	------

藻類 : データなし

残留性・分解性 : データなし

生体蓄積性 : データなし

土壌中の移動性 : データなし

オゾン層への有害性

: データなし

他の有害影響 : 知見のない項目が多いので、一般環境内への廃棄は行わない。

13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物 : 都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託する。
水を加えて希薄な水溶液とし、酸(希塩酸、希硫酸)で中和した後、多量の水で希釈して処理する。
廃アルカリは特別管理産業廃棄物に指定されており、収集・運搬・処分は定められた基準に従って処理する。
- 汚染容器・包装 : 使用済み包装容器は内容物を完全に除去した後、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

- 国際規制
- 国連番号 : 1824 水酸化ナトリウム(水溶液)
- 国連分類 : クラス8(腐食性物質)
- 容器等級 : II
- 海洋汚染物質 : 有害液体物質 Y類
- 国内規制 : 適用法令を参照
- 特別の安全対策 : 特になし
- 輸送の特定の安全対策及び条件
- : 輸送前に容器の破損、腐食漏れ等がないことを確認する。
該当法規に従い、包装、表示、輸送を行う。
車両による運搬時は、運転手に必ずイエローカードを携行させる。
- 応急措置指針番号 : 指針番号 154 毒性物質/腐食性物質(不燃性)

15. 適用法令 (水酸化ナトリウム)

- 労働安全衛生法 第57に規定される表示対象物、第57条の2に規定される通知対象物、第57条の3に規定される調査対象物
- 労働安全衛生法 労働安全衛生規則(安衛則)第326条に規定する腐食性液体
- 毒劇法 第2条別表第2 劇物
- 航空法 施行規則第194条危険物 告示 別表第1 腐食性物質
- 港則法 施行規則第12条危険物 告示 腐食性物質
- 危規則第2、3条危険物 告示別表第1 腐食性物質
- 海洋汚染防止法 施行令別表第1 有害液体物質(Y類)
- 水質汚濁防止法(水素イオン濃度等の項目)
- 水質汚濁防止法施行令第3の3指定物質
- 道路法施行令19条の13、車両の通行制限、日本道路公団公示別表

16. その他の情報

- 引用文献等 : 原体製造メーカーSDS
-

コメント : 記載された内容は、入手できた情報やメーカー所有の知見によるものですが、含有量、物理的・化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。又、法令の改正及び新しい知見に基づいて改訂されることがあります。

記載された注意事項は通常的な取り扱いを対象としたものですので、特殊な取扱いの場合には、ご使用者の責任において、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。

重要な決定等にご利用される場合は、文献をよく検討されるか、試験により確かめられることをお勧めします。

※ 周囲の住民、交通機関等に影響を及ぼす可能性のある場合は、関係官庁へ通報してください。